

不活化ポリオワクチンについての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

1) ポリオ

ポリオの原因はポリオウイルスで、口から体内に入って感染し、腸管内で増殖して便中に排泄されます。感染から発症までの潜伏期間は4～35日(平均15日)です。感染してもたいていは無症状ですが、5～10%に夏かぜ症候群と呼ばれる軽いかぜ症状や胃腸炎が見られます。感染者の1,000～2,000人に1人に麻痺が発生し、一部のものは永久麻痺を残します。麻痺という深刻な後遺症を防ぐのがポリオワクチンの目的です。

2) 予防接種の効果

不活化ポリオワクチンの接種によりほぼ100%の人にポリオに対する十分量の抗体が産生されます。

3) ワクチンの特徴

I型、II型、III型の3種類のポリオウイルスを適切な比率で混合し、不活化したワクチンです。

4) ワクチンの接種法

- 初回接種：生後3か月から12か月までの間に、3週間(20日)以上の間隔をあけて0.5mlずつ3回皮下注射します。
- 追加接種：初回接種から12～18か月(最低6か月)あけて1回接種します。
- 上記の期間を過ぎた場合でも7歳半までは公費で接種できます。

5) ワクチンの副反応

発熱が10%程度、注射部位の腫脹が30%程度、紅斑が60%程度にみられます。頻度は不明ですが、ごくまれにアナフィラキシーなどの重いアレルギー反応が発生する可能性があります。

6) 接種上の注意点

- 生ワクチンを1回接種している場合は初回接種を2回とします。
- 生ワクチンを2回接種している場合は不活化ワクチンを接種する必要はありません。

7) 接種後の注意

ワクチン投与後30分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに投与した医師か看護師に声をかけて下さい。観察時間の間に全く異常がなければ、看護師にその旨一声かけて帰宅して下さい。

8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。